

どうけやくしゃ こども
道化役者と子供

作者：パブロ・ピカソ
生没年：1881-1973
制作年：1905
サイズ：70.5×52cm
ジャンル：洋画
素材・技法：グワッシュ、パステル／厚紙
所蔵：国立国際美術館



肩にそっと添えられている手とは裏腹に、二人の視線は外側へ向けられています。二人は誰で、どういった間柄なのでしょう。想像が膨らむ作品です。

ピカソはスペイン生まれの作家です。スペインで勉強したのち、1900年代初頭に、当時、芸術の都であったパリに赴きます。芸術家仲間たちと共同生活をしながら、人間の孤独感やコミュニケーションの困難などをテーマに叙情的な絵を繰り返し描きます。モデルには、友人やパリの場末に生きる女たちのほか、放浪する芸人も取り上げられました。この作品はそのうちの一点です。少年と大人の全身を正面から捉えた像を、黒で輪郭をとったのち、スカイブルーと朱色で彩色し、黒と白で明暗を施しています。卓越したデッサン力と色彩のハーモニーは見るものを楽しませてくれます。

よく見るためのヒント

二人のポーズや表情を観察する、二人の今の気持ちを考える。

みんなの感想

「落ち込んだ男の子をそっと励ましているみたい」（小四）
「男の子が緊張しているみたい」（小三）

キーワードの理由

図画工作キーワード

色

黒で輪郭を取り、朱色とスカイブルーで彩色されています。

構図

大人と少年による正面像が大人を中心にほぼ作品の中央に配置されています。

人物

顔の細かな表情は読み取れませんが、作家自身の周りにいる人物をモデルにしていたと言われる通り、秀でたデッサン力により手や足のポーズなど、身体の様子が細かく描写されています。

諸外国

-

他教科へのひろがりキーワード

身体

レオタードを着用していても、筋肉など、鍛え抜かれた身体の様子が表現されています。

時代

この作品が描かれた頃のパリでは、各国から集まってきた芸術家たちで賑わっていました。仲間たちと共同生活しながら、ピカソは友人、酒場などに生きる女性たち、放浪する芸人たちを叙情的に描きました。